

## 令和2年度第2回亀岡市環境基本計画推進会議

- 開催日時 令和2年10月29日(木) 午前10時00分～午前11時40分
- 開催場所 亀岡市役所 別館3階 会議室
- 出席者 田部会長、加藤副会長、河原委員、石黒委員、山脇委員、西村委員、兒嶋委員、村山委員、田上委員、木村委員、太田委員、丸谷委員、由良幹事  
(事務局5名)
- 欠席者 神崎委員、井尻委員、上田委員、尾松委員、松山委員

### 1 会長挨拶

### 2 協議事項

#### (1) 亀岡市環境審議会への委員の推薦について

- ・立候補者がいないため、田部会長を推薦することで一致

#### (2) 第3次亀岡市環境基本計画の策定について

意見・質問	回答
個別目標では、詳細な目標が挙げられているが、これらは事務局が各施策の部署とヒアリングを行った上で作成しているのか。それともコンサルタントが作成しているのか。	たたき台として事務局で作成しており、コンサルタントへの委託は行っていない。お示ししているたたき台に対して委員の皆様からご意見をいただきたい。また、個別目標が固まり次第、各施策の部署と協議を行っていく予定をしており、その中で数値目標の設定も計画したい。
個別目標の資源循環型社会の形成の中に、「サーキュラー・エコノミーの推進」とあるが、実施する主体は存在しているのか。どのような道筋・手法でもってサーキュラー・エコノミーを実現するのか。具体的に施策がなければ、もう少し表現を工夫した方がよいと思う。具体的な施策がなければ、書いてあるだけで10年過ぎてしまう計画になる。	現在、具体的に取り組む事業者は存在していない。今後、サーキュラー・エコノミーの観点を持ちながら施策を検討していくために頭出ししている。今後、精査していきたいと考えている。
「個別目標」という言葉ですが、「行動目標」の方が市民に親しみやすいのではないかと	ご意見を踏まえて変更できる部分是对応したい。

<p>と思う。行動に表れてこそ、成果が上がるので、変更される余地はあるのか。</p>	
<p>アップサイクルによる経済活性化を目指すとするが、現時点でアップサイクルに取り組む主体はどれくらいあるのか。</p>	<p>一般社団法人1団体となっており、フライバッグプロジェクトという亀岡の空を飛んでいるパラグライダー等で使用された生地を使って、エコバッグに生まれ変わらせて製品化する事業をされている。また、完全なアップサイクルとは言えないが、オーガニックコットンに蜜蝋を染み込ませて、天然のラップを製造されている企業があり、亀岡市に移転いただきながら、製品開発の拠点として事業展開していただいている。</p>
<p>市内の外国人人口が1,000人を超えおり、環境先進都市を目指すためには、多文化共生の観点も取り入れていく必要がある。</p>	<p>多文化共生のまちづくりは市政運営の柱であることから、配慮しながら第3次環境基本計画策定を進めたい。</p>
<p>資料6に記載されている項目がどのような施策にどのように推進するのかを結び付けていかなければ意味がない。国が2050年に二酸化炭素の排出を実質ゼロにすることを宣言した。これに先立って、京都市・京都府・宮津市・与謝野町・大山崎町が宣言している。環境先進都市を目指す亀岡市としてどう考えるのか。亀岡市の取組としてプラスチックごみゼロが重点Ⅰに書いてあるが、重点Ⅱの脱炭素化を見据えたまちづくりの方が国や府からのトップダウンである。亀岡市もそれに沿って計画を立てていかなければいけないと思う。重点Ⅱは相当重要な内容にならざるを得なく、「脱炭素化を見据えたまちづくり」ではなく、「脱炭素化に向けたまちづくり」であると思う。そうしなければ2050年の目標が達成できないと思う。</p>	<p>京都府の第3次環境基本計画においても、将来像に脱炭素の実現が盛り込まれており、本市の計画においても、「重点目標」や「めざすべき環境像」にも盛り込む必要があると考えている。お示ししている資料はたたき台であり、今後、ご検討いただく中で変更したいと考えている。</p>
<p>地球温暖化による気候変動も近々の課題であり、2050年には実質ゼロにしなければ、大変なことになることがわかってきており、示された素案ではそのあたりが弱いと思う。他市の環境審議会委員をしている立場からすれば、他市では国や京都府の目標に整合させ、具体的な数値を挙げて施策を組み立て</p>	<p>京都府の第3次環境基本計画においても、将来像に脱炭素の実現が盛り込まれており、本市の計画においても、「重点目標」や「めざすべき環境像」にも盛り込む必要があると考えている。お示ししている資料はたたき台であり、今後、ご検討いただく中で変更したいと考えている。</p>

<p>いる。また、亀岡市では世界に誇れる環境先進都市としているが、世界と何を比較するのか。例えば、温室効果ガス問題で世界をリードしているのであれば、世界に対してもアピールしやすいのではないか。プラスチックの資源循環も大変重要なテーマであるが、低炭素化が進む目標設定をしてほしい。</p>	
<p>策定する計画では実施計画を作るのか。例えば、10年計画であれば、短期・中期・長期で3年・5年・10年となると思う。実施計画が作られた方が見やすいと思う。</p>	<p>現時点で未定である。現計画については数値目標があまりなかったことから、実績が見えてこないものとなっている。次期計画では、各施策の担当部署と協議を行いながら、市民の方にわかりやすい数値目標を掲げたいと考えている。</p>

<p>主な意見</p>	
<p>資料5の低炭素社会の構築に向けた取組の施策の内容に「排出権取引の活用」とあるが、現実的にはそうなのかもしれないが、あえて施策として明記する必要はないと思う。</p>	
<p>資料5の「交通対策」はまだ重要であると思う。世界の自動車メーカーの潮流は電動自動車の生産にシフトしている。これは自動車から排出されるCO<sub>2</sub>規制が背景としてあるが、ノルウェーでは約70%の自動車が電動化されていると言われており、CO<sub>2</sub>を排出しない点では良い取組であると思う。自動車から排出されるCO<sub>2</sub>も無視できないと思うので、そういった観点で交通対策についても力を入れてほしい。</p>	
<p>資料6の「めざすべき環境像」については、ボトムアップ的に個別の活動からめざすべき環境像に向かう方がいいと思う。図の矢印は全て反対だと思う。</p>	
<p>重点Ⅰは「プラスチックごみゼロ」と厳しいものとなっているが、重点Ⅱでは「見据えた」と少しぼやけている。もう少し厳しい表現の方がいいと思う。</p>	
<p>個別目標の題目を議論するためには、その下の具体的施策が見えてこないと感じづらい。例えば、現計画の具体的施策を並べて今後必要かどうかの検討しなければ判断できないと思う。また、資料5右下の「環境保全活動の拡大」には「環境に配慮した行動の実践」とあるがどういうことなのか理解ができない。もう少し判断できる資料を用意してほしい。また、重点目標はとても重要な要素であり、この部分の決定が基本的なスタートになるのではないかと思う。</p>	
<p>プラスチックごみゼロ宣言が表に出てしまっているが、実際はこれだけではないと思う。10年後に向けて宣言だけに引きずられることはないと思う。脱炭素のまちづくりの方が10年後に重要であれば、その方向で組み上げていけばいいと思う。</p>	
<p>温暖化対策では、CO<sub>2</sub>を減らす緩和施策となっているが、市民の安全安心という観点であれば、適応策が必要と言われている。集中豪雨などの異常気象による自然災害が増え</p>	

ており、環境の観点からは少しずれるかもしれないが、そういった観点を入れていただきたい。

日本の農産物は安全なものと思っていたが、NHKの番組では世界で52位となっていた。世界で禁止されている農薬が日本では使用されていることもあるので、世界に通用する農産物の観点もあればいいと思う。

資料7の地域経済循環率は重要であり、SDGsの持続可能な社会の実現には、経済が成り立たなければ、今後、亀岡はだんだん沈んでいくことになる。例えば、亀岡ふるさとエナジー(株)によるエネルギーの地産地消を推進するためには、市外電力会社に流出しているお金を止め、そのお金を亀岡に還元して、亀岡市民のために使っていくのであれば大賛成だと思う。亀岡市を持続可能なまちにするには必要だという説明があればいいと思うし、そういった観点から資料を作ってほしい。

### 3 閉会